



2月 虹だより

虹のこころ保育園

分かち合うことを教えれば
こどもは思いやりを学ぶ

進級、進学で、気ぜわしくなる時期に入ります。虹のこころ保育園では、極力お子さんに負担のかからぬよう、配慮して保育にあたっていますが、楽しみにするお子さんばかりではありません。不安や緊張で、お子さんの様子がいつもと違ってしまう場合もあります。そのようなときはいつでも保育者にお話してください。

また、全国的にインフルエンザが流行しています。感染ができるだけ少なくなるように、看護師と保育者が保護者の方に声を掛けさせていただいております。

こころよく皆様にご協力いただけていることに感謝いたします。



2月の予定

- 1日(金) 節分会
- 6日(水) 交通安全指導
(歩き方・4, 5歳児)
- 13日(水) 誕生会(1, 2月誕生児)
衛生消耗費・教育充実費集金日
- 22日(金) 避難訓練
- 27日(水) 緑が丘小学校学校訪問
時間外保育料集金日

★ * ○ ★ * ☆ ○ * ★ 豆まきをします

2月1日、節分会を行います。
節分会と書いて「せつぶんえ」と読まれることはご存知ですか？
古事記によると、米を撒いて祓いや清めをしたようです。
平安時代には「国土安穏・万民農楽・五穀豊穰・転禍為福」の祈りを込め、豆をまくことが定着しました。
虹のこころ保育園でも、日本の文化を継承し、自分の追い払いたい鬼に豆を撒きたいと思います。



私たちの家庭生活は、家族が分かち合うことによって成り立っています。それぞれの時間やスペースやエネルギーを家族のほかの者たちと分かち合うのです。

幼い子どもたちは、家族のなかで助け合い、協力する経験をとおして分かち合う心を学んでゆきます。たとえば、一つのお風呂を家族はどのように使っているか。おもちゃは、兄弟でどんなふうに分け合っているか。一台の車を家族でどんなふうに使っているか。かぎられた収入源で、家族はどのように助け合って暮らしているか。子どもは一つひとつ学んでゆくのです。

親自身が、人に対して、また子どもに対して分かち合う心をもって接すれば、子どもはその親の姿から学ぶものです。分かち合う心は、言葉で教えるのではなく、親が態度で示すことが大切なのです。

親が厳しく叱りつければ、子どもは言うことをきくかもしれません。しかし、それでは、本当の意味で分かち合う心を教えたことにはならないのです。



分かち合いは赤ちゃんから

わが子がわがままな子だと人から悪く言われたくないために、親御さんによっては、子どもを厳しくしつけようとする場合があります。けれども、子どもには、歳相応の発達段階があるのです。幼い子どもが、他人の気持ちを思いやることができるようになるまでには、時間がかかります。他人の気持ちを思いやることは、子どもが成長の全過程をとおして少しずつ学んでいく能力なのです。

赤ちゃんにとって、両親をはじめとするこの世のすべては自分の延長です。赤ちゃんには実際、まだ自分と母親と親との区別もつかないのです。自分と母親とを別個の存在として認識できることが、成長の第一歩と言えます。

幼い子どもも、赤ちゃんと五十歩百歩の状態です。幼い子どもは、自分の欲求をその場ですぐに満たそうとするものです。これは、世界中の幼児に共通のことです。どうして自分の子どもだけがこうなんだ、と悩む必要はありません。親の役目は、わがままを言う子供に、少しずつ分かち合う心を教えていくことなのです。

分かち合う心は、なるべく身近なものを使って教えるといよいでしょう。子どもがよちよち歩きを始めた頃から、何かを分け与えて見せるのです。

子どもが育つ魔法の言葉

ドロシー・ロー・ノルとレイチャル・ハリスより抜粋



お知らせとお願い

- 進級にあたりクラスによっては教材、体操服などを購入していただきます。後日お知らせいたします。
- カラー帽子は継続のお子さんには保育園から支給いたします。
- クラス懇談会が予定されております。ご協力、よろしくお願いいたします。